

開宿から400年の時を超え現代の感性で憩いの新拠点誕生



令和3年5月、かつての宿場町の面影が残る富谷市しんまち地区に「富谷宿観光交流ステーション『とみやど』」がオープンし、連日賑わいを見せている。

この『とみやど』は、内ヶ崎醤油店跡地を活用し、宿場町の歴史や文化、市の魅力を伝えるため、富谷宿開宿400年を記念し誕生したものだ。

起業のチャレンジ拠点として地域経済の活性化を目指し、地方創生拠点整備交付金により整備された。

施設内には、イベントステージやマルシェ広場のほか、同地区出身の偉人・内ヶ崎作三郎の生家をリノベーションした記念館があり、古民家や土蔵を活用した建物に6つの飲食店や物販店などが入っている。富谷市役所の屋上で養蜂したはちみつを使った料理や、市の特産品のブルーベリーやお茶、地元食材を使ったスイーツ、県内最古の酒蔵「内ヶ崎酒造店」の銘酒利き酒セットなど、地域と連携したメニューが楽しめる。



ぜひ、この宿場町の誇りと風情が宿る新交流拠点「とみやど」に、足を運んでみてはいかがでしょうか。